

佳作

北海道留辺蘂高等学校

3年 大原 千明

未来につながる力

世界には紛争などの争いや、貧困で苦しんでいる国々があります。この状況は今に始まったことではなく、昔から問題になっていることです。この問題を解決する為には多くの人の支援が必要となっており、また子供たちに関心を持ってもらうことも重視されています。ですが私は未来のためにしたいことが思い浮かびません。それは世界の現状をよく理解していないからです。テレビや新聞で出てくることはあっても、その内容が理解出来ず、無関心になっているからだと思います。そこでどんな方法でもいいから、普段から世界のことをもっと知ろうとすることが大事だと思っています。

私の将来の目標は義肢装具士になることです。義肢装具士を目指そうと決断したのは兄と一緒にいった大学のオープンキャンパスで、たまたま義肢装具学科のブースを見つけて興味を持ちました。そしてテレビの“プロフェッショナル”という番組で義肢装具士の林伸太郎さんを見ました。その中で、林さんが作った義肢を患者さんが身に付け喜ぶ姿に感動し、自分も誰かのために作りたいと思うようになりました。しかし、どんな義肢装具士になりたいかはっきりしていません。なぜなら、義肢装具には多くの種類があるからです。義手や義足の他にも指を本物のように細かく作ったものや事故や病気が原因で麻痺した体を支える装具、車イスなどがあります。義肢装具はただ作るだけではだめなのだそうです。なぜなら切断した部分の形や大きさは人それぞれ違うからです。だから患者さんが義肢をつけて何をしたいかによって作ることが必要だそうです。こういった細かい作業を繰り返すことで、付けるのを忘れるほど性能の良いものを作ることができます。

体が不自由な人は日本だけではなく、世界中にいます。なぜなら事故や紛争で足を失ったケースが多いからです。その国にも義肢装具を作る人はいても、性能が悪く、性能の良い日本の義肢装具が求められています。そのため日本には、世界で活躍している義肢装具士がいます。他にも全国から使わなくなった義足をリサイクルし、無料で提供する活動が行われているそうです。また、現地の人たちが義肢装具を学べる環境も作ろうという活動もしているそうです。私が思う義肢装具士の役割とは、体の一部を失い不安になって自信が持てなくなった人たちが、再び希望が持てるようにすることだと思います。そして患者さん一人ひとりの人生と向き合う仕事です。大変な仕事だと思いますが、これからも義肢装具士の存在は必要になると思うので、大学に進学し、幅広い視野を持って学んでいきたいと思っています。

最初は未来のためにしたいことといっても、私の力でいったい何ができるんだろうと思っていました。でも未来のためにできることは、けっして一人だけの力ではないと思います。なぜなら未来は皆の力を合わせて作られていくものだからです。やり方は全く同じことではないけれど、自分が将来の目標としていることが未来につながっていきます。だから私は自分の目標に向かってたくさん学び、様々な経験をしていきます。

(原文のまま)